特279-14
1200501131803
特279
14

考古圖集

始

考古圖集解說　第十四集

埴輪號（一）

(131) 常陸國西茨城郡川根村字安居發見男子

楯を前に樹てたるを注意すべし。東京帝室博物館所藏のものにして、肥後國八代郡野津村大字野津字上北發見のもの亦楯を前に樹てたるを以て知らる。而して野津村發見のものは、楯の表面に原始的繪畫文樣を刻せるも、本圖版のものには是を見ず。之に反して野津村發見のものゝ楯は、完形ならず、楯の型式を明かにし難きも、本圖版のものは、形調へり。上代の楯としての實形を模せしものとすれば、頗る簡單なるものといふべし。而して野津村のものと同樣に手を有せず、肩部以下圓筒狀をなせるは、稀に見るところなり。埴輪土偶が如何にして發達せしか、或は之が源流を支那に求むるものあり、或は我が獨自の發達となすものあり、しかるに本圖版のものゝ如く、圓筒と普通見る土偶との中間に位するものあるは、獨自發達を說く者の一資料ともなり得べし。卽ち相對的に圓筒より此種のもの現れ、而して一轉して普通見る埴輪偶人となりしと說くを得べきを以てなり。被物（かぶりもの）は支那に於いて古く空頂幘或は半頭幘といへるものに類し、頂きを全く空にせり。是れ關東地方の埴輪偶人に往々見る型式なるも、本圖版のものゝ如く、唯一の切込みあるは稀に見るところなり。高一尺六寸五分、圓筒の直徑六寸、耳穴の徑一寸一分、圓筒穴徑一寸五分。

(132) 上野國佐波郡三鄕村植蓮發見男子首

武裝せる男子の首なり。被物は前と頂きを缺失して其の完形を知り難きも、簡單なる一種の帽子樣のものなるべし。美豆良（みづら）の型式に注意すべし。長く垂れて肩より更に下れるを既に見るべく、更にグル〳〵と卷いて垂れ、其の端を撞木樣にせしものゝ如きも、今缺失して確かむべからず、頸に頸玉を飾り、小札威の掛甲（こざねおどしかけよろひ）を著せしものゝ如く、その一部今に殘れり。而して胸部に於いて甲（よろひ）の制を見るに、注意すべきものあり。卽ち小札は、幅せまきものを交互に挾むを見る。もし後世の小札威の如く威（おど）せしものとすれば、かかる布置とはならざるべし。而して埴輪偶人の掛甲は、概ね此の型式なるによれば、單に是を土工の誤つて描きしものとなし難かるべし、固より古墳發見の小札は、全く後世のものゝ如くに威せしが如きを以て、埴輪土偶のもの亦しかるべしとするの最も妥當なるべきも、暫くこれを考慮の外に置き、此の種埴輪土偶の甲は、奈良時代の文獻に往々

(12)

見る綿甲の一種にして、一々札を綴ぢ付けたりしものなるべしといふ一の假定を試みて、其の正否を後日に決せんと欲す。

(133) **常陸國新治郡中家(ナカヤ)村大字下高津天神塚**
武藏國北足立郡川田村字樋詰 　**發見男子首**

向つて右は、一見男兒らしく見ゆ。頭髪は前額に於て二つに分け、之を後にとりてあつめて垂れたり。しかして其の垂髪の下に耳より後を被ふて切髪を下けしが如く見ゆ。以て其の裝髪の風を見るべし。向つて左の樋詰發見のものは、和田千吉氏考古界第三編第九號に說けり。その發見せられし古墳は今鋤平せられてあとを留めず、埴輪は長くオメンサマと名けられて一般の尊崇厚かりしが、之を動かして病に罹りしものありて以來、人恐れて之を遠ざけしものなりといふ。高七寸二分、面部には目より下へかけて頰紅の如き裝飾あり、又みづらを存し、頸には頸玉をかけたり。其の後に孔あり。冠物は上部缺損せるも、天冠の如き三角形のものを前につけしが如し。

(134) **上野國新田郡寶泉村大字阿久津**
發見女子

圓筒の上に女子立てり。耳邊の裝飾に注意すべし。兩耳に粒の相竝びて附著せるは、耳玉と稱すべき耳飾の一種にして、小玉を緒に貫きて綴ぢ付けたるものなり。而して耳環をも垂れたり。耳玉・耳環は共にわが石器時代に於て既に行はれしものゝ如く、埴輪の用ひらるゝ時代に亦行はれしは、同一民族の繼續せる文化相として見るべきか、將又略ほ同程度の文化相を有するものゝ所產と見るべきか、單に是等少數の事實によつて遽かに斷すべからざるも、興味を惹くに足る。頭髪を島田風に結び、櫛を額上に插し、頸に玉を連ねたり。兩腕を失ひたるも、指先きを兩胸に殘せり上衣の合せ目は線を以て表はし、中央より左に曲がれるは、左衽を意味するものなるべし。結紐二所あり。乳房の頭なるべし、胸の左右にあり。高二尺六寸、圓筒徑四寸七分圓筒に帶なきを注意すべし。卽ち普通の圓筒は二條三條の帶を有するも、偶人を上にのせたるものは、寧ろ帶なきを普通とするが如きを以てなり。

(135) **上野國佐波郡三鄕村發見女子**

特に著しき特徵を見ざるも、形の調へるを採るべし。頭髪を島田風に結び、櫛を額上に插したり。耳環を垂れ、頸に頸玉を連ねたり。兩腕を張りて指先を胸に當てたるは、普通女子の埴輪に見る體姿なり。乳房の胸に高くなれるを見るべし。左の脇腹のあたりの上衣に、上下左右に線を引けるは、或は文樣を表はさんとせしものか。下部の圓筒部を失へり。

(136) **上野國佐波郡三鄕村字八坂發見**
女子首

島田風の髷及び櫛の著しく大形となりしを注意すべく、容貌美しくして愛すべし。耳に耳玉をつけたるは、之を見るべきも、耳環は今失はれて唯其の痕を殘すのみ。高九寸七分、是を發見せし古墳は、今梨鋤の厄に遭ふて、其の形を見るべからざるも、さまで大ならざる圓墳なりしと、土地の者の語れり。

(137) **上野國佐波郡三鄕村字波志江發**
見女子首

島田髷に櫛を插し、頸に玉を飾りたり。耳玉は之を施さざりしものゝ如く、耳環は今失はなれて、唯其の痕を殘すのみ。

(138) **上野國佐波郡三鄕村大字八坂**
字中道下古墳發見女子首

頭上の島田髷の型式に見るべきものあり。卽ち上部より見れば分銅形をなし、中央に蓋の如きものをのせたり。是れ製造の際、此の部分を後に補ひしに、其の乾濕の度を異にせし爲めか、火を加ふるに當つて、收縮の程度に遲速あつて、補綴の部分に切れ目の生ぜしならん。額上に櫛を插し、耳に耳玉をつけたり、而して余の不注意によつて、寫眞にその側面を出すことを忘れしを以て、之を明かにし難きも、その玉の數多く、恐らく二條三條と玉を綴ぢ付けしが如く思はる。

以上の女子を通じて見るに、結髪に島田風の髷の盛行せしを見る。埴輪土偶より上代女子の結髪を見るに、この島田風のものゝ外に、稚兒髷の風のもの亦存せしも、前者は後者を壓して盛行せしなるべく、多く前者に結髪せるを見る。

(139) **上野野佐波郡三鄕村字波志江**
發見男女未詳首

結髪より見るに、かゝる稚兒髷の風のものは、女子にも

時に行はるゝは之を前に說けるも、明かに男子と推定すべきものに亦この風を見るを以て、本圖版のものゝ如く、頸部以下の失はなれて、その男女の孰れの特徵をも存せざるものにあつては、その性の如何を決する能はず。

(140) 上野國佐波郡三郷村字安堀不二山古墳發見圓筒

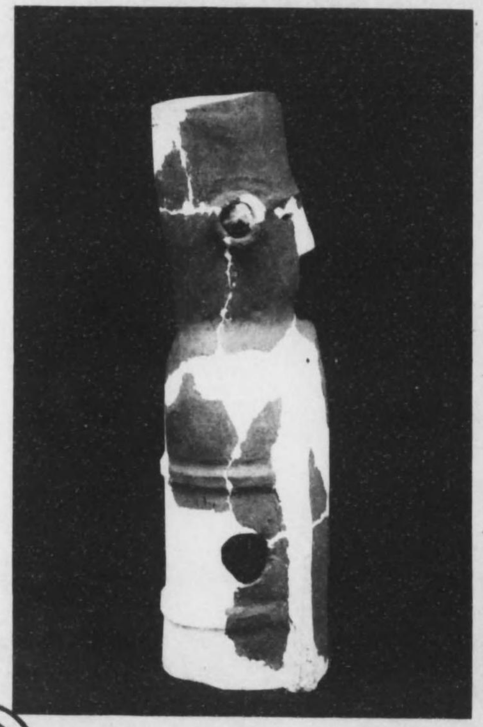
上部太く下部漸く細く、しかも上端一旦狹まつて更に開きしものなるも、今其の部分を缺失せり。而して其の透しに圓形あり、長方形あるが上に、舌形をなせるものを見るは、珍とするに足る。なほ上帶に刻目あり、圓筒全面に朱を塗りしものなるべし、今に點々その痕を見る。圓筒には形狀是に異なるもの尠からず、而して是等を併せ見るに、本圖版の如きものは相對的年代の下れるものなるべし。高二尺一分・徑九寸一分・厚三分より五分に亙る。

埴輪は是を發見せる古墳の明かならざるもの多く、殊に關東地方のものに於て然りとす。然るに本圖版のものは、幸ひ余(後藤)の實査せるものにして、多少古墳そのものに於て、明かにし得たるものあるを以て、簡單に之が記述を試むべし。不二山は前方後圓の大古墳にして、長徑約四十間、今前方部の突端は鐵道線路の爲めに切り崩されしも、しかも猶略ほ完形を見るべし。蓋石は古墳の下部を繞りしものゝ如く、拳大以上の礫石四五寸の厚をなせるを見る。埴輪は幾列に繞りしか、之を明にし得ざりしも、下部に於いて前方後圓を通じて繞り、特に後圓部は其の頂上に近く更に一列の繞りしものゝ如く、本圖版のものは、その後者の列の一たりしなり。而して興味を惹くは、簡單なる圖樣なるも、文樣の刻せられし埴輪殘片の發見せらるゝことなりとす。その圖樣畿內に於いて見るが如き組織文をなさず簡單なる文樣を陰刻せしものなるも、その類例の關東にあるを知らず。後圓部に組合せ石棺あり。今蓋を失ひしが長持式の完形のものを見る。關氏の『發墳曆誌』に、

八坂邑有岳號不二山土人曾掘之　石室出焉　挽蓋石爲矼在大田邑赤坂石橋俗傳石室中有帶甲之骸骨

とあるは是なるべし。されど相川之賀氏はこの石棺を以て附近の圓墳より發見せしものを移せりと說かれたるを以て暫く疑を存してその石棺を本古墳のものとするをさけんとす。猶先年この石棺附近の地表面近くより徑二寸に足らざる小形の乳文鏡と共に十數個の滑石製刀子の發見せられしことあり。なほ本古墳の周圍には陪冢として小圓墳の繞りしものありしといふ、今一二を存せり。

子　　男
（藏氏吉千田和）



首　子　男
（藏氏賀之川相）

首　子　男

（和田千吉氏藏）

子　女

（和田千吉氏藏）

子　女
（藏氏吉千田和）

女　子　首

（三郷村小學校藏）

首　子　女
（相川之賀氏藏）

首　子　女

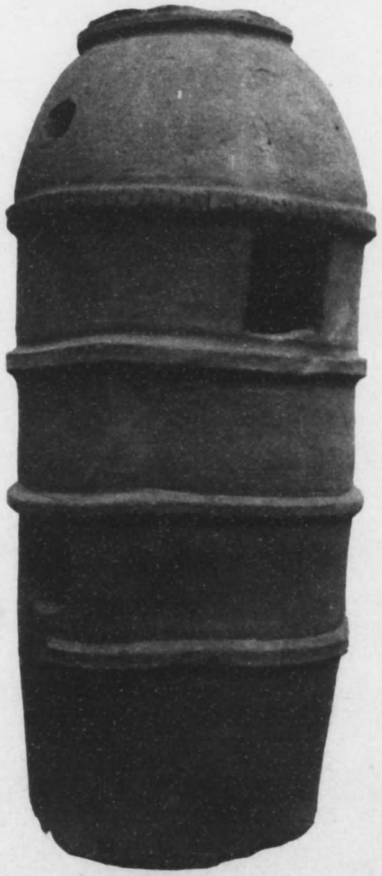
(相川之賀氏藏)

男女未詳首

(相川之賀氏藏)

筒　圓

（不二山神社藏）



大正十一年五月廿八日印刷
大正十一年六月一日發行

編輯兼發行者　東京市下谷區上根岸町八十八番地　考古學會
代表者　東京市下谷區上根岸町八十八番地　高橋健自
印刷者　東京市神田區表猿樂町六番地　大塚玲
印刷所　東京市神田區表猿樂町六番地　大塚巧藝社
發賣所　東京市本郷區龍岡町三十四番地　聚精堂

不許複製

終